

第二章 第3節 「旧中山道（+千日回峰行道）」スルーハイク

～ [和宮降嫁の^{かずのみやこうか}尽忠^{じんちゆう}報^{ほう}国（報告）^{ワンツー}1 2 ミッション & 比叡山千日回峰行道の^{さんごう}讚仰体験] ～

標記旧街道を、前半メインステージ・後半サブステージに分けてトレイルし、合わせて正身 2011（平成 23）年 11 月 1 日（火）東京日本橋スタート～11 月 22（火）京都駅前ゴールの 21 連泊 22 日間、ルート沿い計画距離 604 km に対する実歩行距離 707 km を連続連日歩行で踏破しました。もちろん、この期間中に休息日は入っていません。暦の日付が歩いた日数と重なるように 11 月 1 日の早朝に歩行開始しました。この時足跡を残した通過県は、東京都、埼玉県、群馬県、長野県、岐阜県、滋賀県、京都府でした。

1. 前半メインステージ～ [和宮降嫁の^{かずのみやこうか}尽忠^{じんちゆう}報^{ほう}国（報告）^{ワンツー}1 2 ミッション] ～

正味 2011（平成 23）年 11 月 1 日（火）東京日本橋スタート～11 月 19（土）京都三条大橋ゴール→京都御所→二条城までを 18 連泊 19 日間、ルート沿い計画距離 543 km に対する実歩行距離 638 km を連続連日歩行で踏破しました。1 日平均の実歩行距離は 33.6 km、同時間 9.4 時間、同平均時速 3.6 km となりました。もちろん、この期間中に休息日は入っていません。全ルートの概要は図-24 のとおりでした。

(1) 「大香ブランド^{RouCon}老魂サブタイトル」設定の背景事情

この「旧中山道」と言えば次の事です。江戸時代末期公武合体の政略結婚に^{ほんろう}翻弄された皇女和宮は、不本意ながらも、1861（文久元）年 10 月 20 日、十四代将軍・徳川家茂の御台所としての降嫁の旅——本体だけで千数百人、警固や人足などを含めると 2 万人以上が係り、行列の長さは 50km にも達したと云われている——は、京（京都）を出立し、江戸（東京）に向かわれ、翌年 2 月 11 日、家茂との盛大な婚儀・祝宴が執り行われました。東海道筋では河留めによる日程の遅延や過激派による妨害の恐れがあるとして中山道を通って江戸へと向かったとされています。

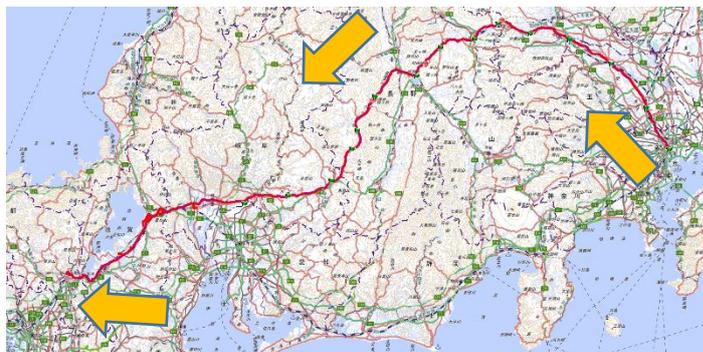


図-24

そこで次の意思を持って「大香ブランド^{RouCon}老魂サブタイトル」を見出しの [和宮降嫁の^{かずのみやこうか}尽忠^{じんちゆう}報^{ほう}国（報告）^{ワンツー}1 2 ミッション] に設定し、具体的には次の二つのミッション（使命・任務）を背負って、和宮降嫁の行列とは逆向きに歩く事にしました。

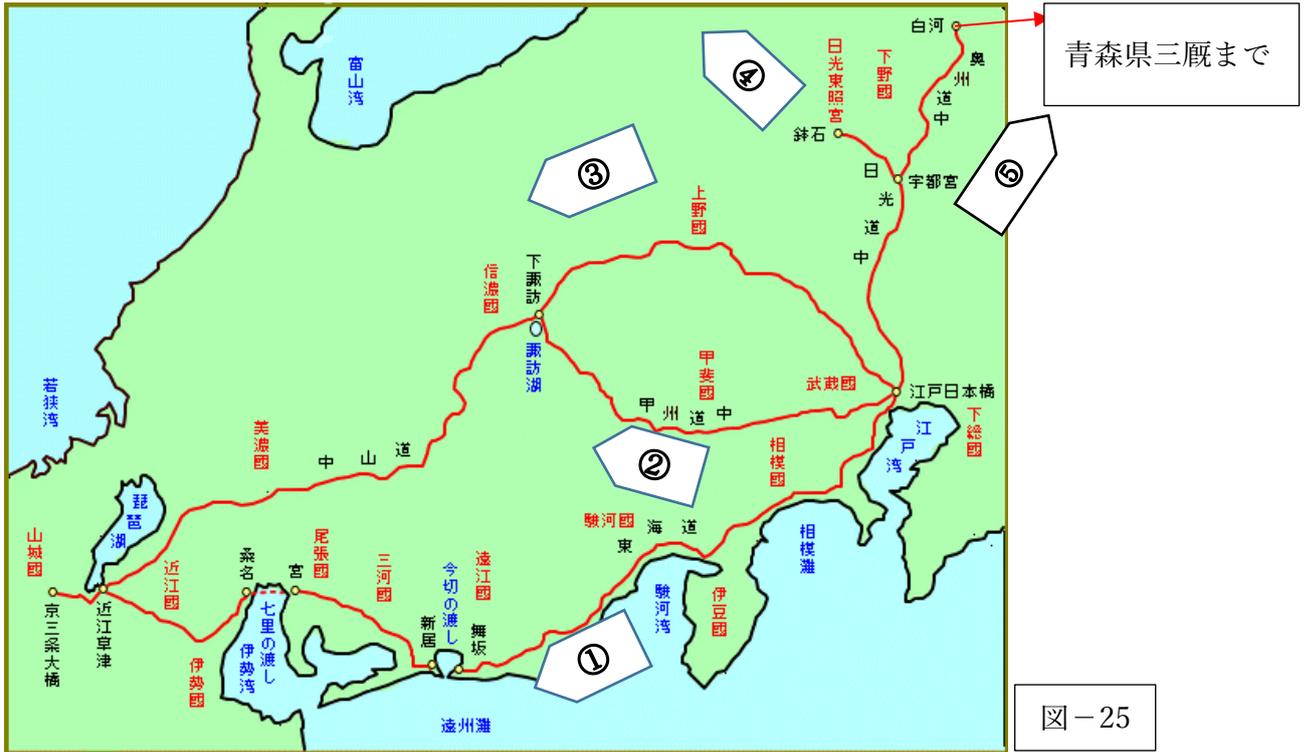
a. 将軍家持からの書状受託

これが、一つ目のミッションです。

家茂から徳川家の名代として指名され、第 121 代孝明天皇宛ての書状を笈箱に携え、①「和宮が江戸に無事到着し、徳川家に輿入れした。」と言う事をお住まいだった京都御所に、報告・連絡する事、②京都に於ける江戸幕府の始まりと終焉^{しゅうえん}の舞台でもある徳川家（武家）の象徴としての、徳川将軍累代の京都本陣たる二条城にも「江戸で和宮を無事お迎えした」と言う報告・連絡の役割を担うとしたものであります。私のその報告の任は、尽忠報国（将軍に忠義を尽くし以って国家に報いる事）の行為と重ねたのです。

b. 1・2への拘り

次に二つ目のミッションです。降嫁の出立日10月20日、婚儀の月日は2月11日、時の天皇は121代で1と2に縁があります。一方、旧五街道と旧中山道との関係性に注目して見ました。旧五街道は図-25のルートで、東海道に①を付定し、順次右回りに付定して行くと旧中山道は③になり、真ん中の番号となります。旧奥州道中から左回りでも真ん中です。真ん中とは中央・中枢（最も重要な機能を担っている処）の事であり、そこで中央に位置する旧中山道を旧五街道の代表になって貰います。その代表格に重要な意味付けを持たせます。「五」を分解すると $5 = 1 + 1 + 1 + 1 + 1$ になります。ここで直感浮かんだのが、私の出発を2011年11月1日にすることです。ここにも1と2が表れます。そして、年月日の1を全部加算すると「五」になります。



それでは、この日にスタートする街道を旧中山道にしよう、逆に旧中山道のスタート日はこの日にしようとしたのです。ここに、和宮を取り巻く諸事情と私の出立日が関連付けられたのです。

c. 山伏スタイル

孝明天皇宛ての書状を携えるに当たっては、万難を排し、源義経・弁慶の安宅の関を突破するが如く、幾多の危難に遭遇するも、これを突き抜けて行く姿勢に山伏スタイルを重ねたいと思いました。山伏装束を持ち合わせていない中で、「笈箱」を背負うために着用する「笈摺」——巡礼などで笈を負う時、衣服の背が擦れるのを防ぐために着る単ひとえの袖なし“おいずる”とも言う。——を求め、図-26を着用する事にしましたのです。(同図は毎日着用したのでヨレヨレとなっています。歴史街道スルーハイクで着用したのは、この1回だけです。)



図-26

(2) 古道の雰囲気が充満

さて、宿場の中で、奈良井つまご・妻籠まごめ・馬籠は、くねくねした道の両側に、江戸時代を特徴付ける出桁造りの建物が並び、宿場の状況を良く留め、江戸時代にタイムスリップした感があり、大勢の観光客が繰り出していました。条例により保存していると聞いた奈良井宿は、江戸時代の雰囲気が極めて自然的ですばら

しかったです。このような雰囲気を感じられる所は、吾が山形県には見られません。

私の大好きな石碑・石塔を見ると、東側の信州路くらいまでは馬頭観音・道祖神が極めて多く、西側の木曾路以降に行くに従い、秋葉山信仰や御嶽山信仰の石碑（信仰碑）が多くなりました。古道らしい古道として印象深かったのは、群馬県・長野県堺の「碓氷峠」、長野県下諏訪手前の「和田峠」、長野県奈良井宿先の「鳥居峠」です。もちろん、付近には国道のトンネルはありますが、歩く事しか出来ない古道が残っています。その道を思うが儘に小川が横切り、道の整備の痕跡である石畳みや往来する人々の道中安全の祈願所、不幸にも道中亡くられた人の供養碑・石仏等が随所に残され佇んでいました。この道は、新撰組の前身であり、庄内町清川出身の清河八郎率いる「浪士組」が上洛した時の道でもあります。往時の人々の往来を偲ぶ事が出来ます。また、古木・大木の松並木や杉並木も残されています。松のくねくね曲がった姿は、人臭くなく、当時の儘であり、木の生命の赴く儘に成長したと言う事を感じました。

(3) ゴール&ミッション達成

最終19日目は朝から雨降りでしたが、京都三条大橋に無事到着しました。歴史街道ハイクに係る初めての京都です。引き続き、京都御所邸内参内さんだい（宮中に参上する事）し、引き続き二条城に赴き、「大香ブランド老魂サブタイトル」に掲げた和宮降嫁に係る一切のミッションを報告し、ここに完遂かんすいしました。結局は朝からは雨に打たれた一日でした。「雨もあれば晴れもある、晴れもあれば雨もある事は分かっている、しかし、よりに依って最終日がこんなにも強い雨なのか、運が悪いな、何かの罰でも当たったのかなあ!？」などと少し弱気になる事もありました。しかし、次のように理解しました。「もしも雨で運が悪かったとすれば、それは良運が回ってこなかった事。つまりは修行が足りない事、何かの悪業に対する戒めだ、自業自得ではないのか」と。もっともっと修業せにゃあかんなあ!と思いました。

ところで、間違いなく京都三条大橋だと確信を得たのは、地理的な位置と言うよりは、予めガイドブックで知っていた図一27の高山彦九郎の銅像であります。ひざまず 跪いて京都御所の方角を望拝する姿です。江戸時代「寛政の三奇人」と云われた中の一人で、天皇を尊ぶ事では誰にも負けない信念を持っており、「俠熱のきょうねつ（狂信的）勤王志士」と云われました。また、高山彦九郎は当時の大旅行家で、1790（寛政2）年7月27日から29日までの三日間山形に滞在し、「北行日記」に記載しているとの事です。その銅像の眼差しは「変わり者の風貌」そのものであり納得しました。



図-27

図一28は奈良井宿です。図一29左は杉並木、同図中は松並木、同図右は石畳みです。

(4) 「グットタイミング」

余りにもグットタイミングで教えて貰った事がありました。不思議な事が起こるものです。



図-28

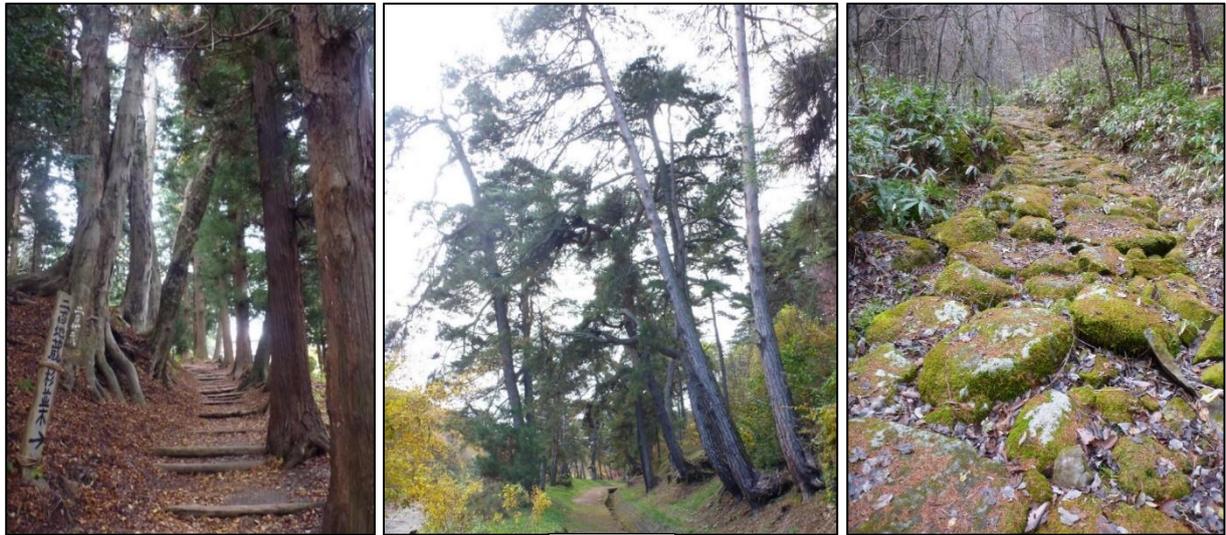


図-29

一つ目は、11月5日（月）碓氷峠の群馬・長野県境に跨る熊野神社（社殿）から先で、軽井沢方面への古道を探している時です。古道への入口を中々見付けられず、周辺には人家も無いし、しばらく右往左往していました。はて困ったなあと思案している処に、たまたま地元のボランティア観光ガイドが車で通り掛かり「何しているの？」と声を掛けられたのです。それが地元の古道に精通している人だったのです。とてもグットタイミングで教えて貰いました。

二つ目は、11月10日（木）^{やぶはら}藪原宿を過ぎ吉田の一里塚の先のトンネル近くの所で「交通量が多いあの山吹トンネル内の通過はいやだなあ！」と深く瞑想・思案していた時に、林で見通しの悪い巻道の古道から歩いて来た夫婦ずれとばったり出会ったのです。「国道回避の古道は大丈夫よ」と言ってくれました。

三つ目は、11月14日（月）太田宿を過ぎ岩観音の先の所で、うとう峠（鵜沼宿手前）への入り口が分からなくて、ここでは行ったり来たりで入り口探しに10分くらい迷っていた所で若い夫婦とすれ違いました。出会った時にすぐ聞かなかったのは、見立ての格好は歩いている様には見えなかったのです。しかし、「待てよ、ダメ元で聞いて見よう」と直感が働いたのです。少し戻るように追い掛けて聞いた処、何とその所を歩いて来たと言うのでぴったり教えて貰ったのです。

上の3例とも、この出会った人達とは、前後1時間くらいは人とは会いませんでした。とてもとてもグットタイミングだったのです。神仏のご加護のお蔭によるものと感謝しました。

（5）ハプニング

その1：15日目2011（平成23）年11月15日（火）、美江寺宿^{みえじやど}の先の小簾公園^{おす}で時計を無くした事に気付きました。時計はバネリングに通していたのですり抜けてしまったものと思う。大垣駅前のアパホテルに言った際に、近くのショッピングセンターで時計を購入しました。

その2：16日目2011（平成23）年11月16日（水）、柏原宿の八幡神社（社殿）の所でデジカメのSDカードが「満杯」と言う表示があり、さらに持参した予備のものは不良のものでありました。これには一瞬^{うるた}狼狽えました。幸いにもJR柏原駅が直ぐ近くだった事から電車で大手量販店のある彦根まで買いに行った、ところが、JR東海と西日本の境界である米原で乗り換える必要があったのです。彦根のKSデンキでSDカードを購入したものの、料金支払いの後にマイクロSDカードと、間違いに気づき交換して貰いました。踏んだり蹴つたりの状況となりました。焦っていたのかもしれない、1時間20分ほど（4.8km相当）の大きなロスとなり、前日予約のホテルをキャンセルし、別のビジネスホテルに投宿しました。

(6) 良い思い出

その1：8日目2011（平成23）年11月8日（火）の夜は、下諏訪の本陣宿であった「かめや」に泊まりました。前日の夜に下諏訪地域の宿探しをしたのですが、予定の宿代（予算）に合致する所がなかなか見付からず、予算オーバーだったが、一度は断った「かめや」に結局は泊まったのです。中に入って見て分かったのですが、そこは、江戸時代は皇女和宮や参勤交代の諸大名、そして第五代将軍～第十四代将軍の歴代御台所の花嫁行列の寝所であり、明治初期に旅館として営業を開始後は、芥川龍之介、与謝野鉄幹・晶子、島崎藤村ら諸文豪が宿泊した歴史ある旅籠・旅館だったのです。そして、夕食後、女将さんから「和宮」等の泊まった部屋『上段の間』を案内・説明して貰いました。まさに、皇女和宮と夜をお供した、警護を買って出たと言う感慨深いものがありました。宿代のお値段以上のおもてなしを頂き思い出に残りました。「災い転じて福となす」の感がしました。

その2：街道沿いの全山は原色の紅葉盛りでしたが、特に5日目11月5日（土）の軽井沢の街中の「軽銀通り」は立錐の余地もない程観光客が繰り出していました。ここに至る前は碓氷峠越えがあり、3時間位自然の中に浸って来たが、真逆の喧騒の中に出会うと、それはそれで安心感を得られる心境になりました。

(7) ちょっと残念

2011年11月11日（金）11時11分頃の通過点はどこで何をしていたのか。2 = 1 + 1なので、1が12個繋がったのです。ここにも1と2が表れたのです。木曾川沿い、中央本線の須原駅の所でした。雨降りで雨具（ポンチョ）を着用していました。同駅のトイレを借り、休憩を取った時間帯でした。この時に、何かセンセーショナルな出来事の演出を、と浮かんだが、強い雨模様で気力が湧きませんでした。

(8) メインステージ全体を通しての感想をつたない短歌で

冒頭部の2首は、18連泊19日間と最終日の雨を引っ掛けて、次のように色気を持って解釈しています。

“あれこれといっぱつ1いく8いく1濡れ行場9 長き道中1おう9とつ有りて”

“中山道向きは違えど和宮と 夜は一緒の旅籠の御殿”

“くねくねと山中通り続く道 ちょんまげ武士と挨拶交わす”

“中山道悠久ゆうきゆうまとめて畳み込み 一歩一歩で解きほぐす”

“松に杉風雪に耐えて凜と立つ 我の歩みに力を賜る”

“奈良井宿・妻籠・馬籠と宿の駅 くるる古道に出桁の住まい”

(後日談)

旧五街道を踏破して思う事は、この旧中山道が一番昔の、古道の面影を残している歴史街道です。旧五街道全てのスルーハイクの結果として、悠久に繋がるような最も古道らしさの雰囲気をも十分に持っている所は、旧中山道を於いて他にありません。名だたる峠越えが何箇所もありましたが、いわゆる藪漕ぎを強いられる所は皆無で、いずれも整備が行き届いて快適な「歴史街道・歴史古道」でした。

2. 後半サブステージ～ [比叡山千日回峰行道さんごうの讃仰体験] ～

前記メインステージの旧中山道トレイルの延長線上に繋いで「千日回峰行道」を歩く事にしました。

前記旧中山道の18連泊19日間で踏破した19日（土）は、翌日からの比叡山周回に備えて、里坊の大

津市坂本に移動しました。20日(日)は比叡山千日回峰行者の「無動寺ルート」(図-30)を周回し、引き続き、同じく比叡山千日回峰行者の「京都大回りルート」を2日間かけて周回しました。正味2011(平成23)年11月20(日)から11月22(火)までの2連泊3日間でした。この間は計画距離61kmに対する実歩行距離は68kmとなりました。前記メインステージ「旧中山道」日本橋スタートからは、全体では21連泊22日間歩き続けました。

RouCon
(1)「大香ブランド老魂サブタイトル」設定の背景事情

私の菩提寺は、山形市岩波の新福山石^{しゃくぎょうじ}行寺であり、宗派は天台宗です。天台宗といえば、「比叡山延暦寺、伝教大師最澄、千日回峰行者」と浮かんで来ます。まずは冒頭、比叡山延暦寺の「千日回峰行」について、インターネットや本を参考に要点を記述しておきます。同行は荒行中の荒行とされています。どんな理由にせよ、途中で行を続けられなくなった時は自害する決まりで、そのために首をつるための紐と短刀を常時携行する。頭にはまだ開いていない蓮の蕾を象ったヒノキの笠を被り、白装束(死に装束)^{まじ}を纏い、草鞋履きの出で立ちです。千日と言っても連続して3年間と言う意味ではなく、7年間を掛けて通算1千日の間行なわれます。

最初の3年間は、1年のうち100日だけ行が許され、1日30kmを歩いて255箇所ほどの霊場を巡拝します。続く2年間は1年に200日、同じ修行を行ない、この5年間で通算700日(1-100、2-100、3-100、4-200、5-200)となります。ここに至って、9日間の「断食、断水、不眠、不^ふ臥の行」に入ります。この行を修めないと次の行に進む事は許されず、通常、人間が断食・断水状態で生きられる生理的限界は3日間とされている事を考えれば、俄かには信じがたいほどの苦行と言えます。この満行の頃は死臭がすると云われています。この行の後、6年目は1年間に100日間(通算800日)の行となり、1日に歩く距離は60kmと倍増し、巡拝する場所も266箇所に増えます。最終の7年目は年間200日となります。

前半の100日間(通算900日)が1日84km、300箇所の巡拝となります。この期間は通常の比叡山回峰と合せて京都大廻りに入り、1日にこれだけの距離を歩くとなると睡眠時間は僅か2時間、夜中の12時に起きて歩き始めます。後半(最後)の100日間(通算1千日)は当初の1日30kmの行に戻ります。これで合計1千日間、歩く距離は地球1周に匹敵する4万kmにも及びます。

これだけの極限の難行苦行を行う行者の気持ちを少しでも知りたく、行道筋を歩いて見たくないので、讃^{さんごう}仰とは、宗祖や経典などの功德を讃え、教示を受ける対象に敬意と尊敬の念を示す事を云い、まさに千日回峰行者に対する畏敬・讃仰の念が一杯になり、「大香ブランド老魂サブタイトル」を見出しの「比叡山千日回峰行道の讃仰体験」に設定し歩く事にしたのです。



図-30

(2) 同体験トレイル

a. 「無動寺ルート」を周回

千日回峰行道には「無動寺回峰行道」(図-30の濃い赤線ルート)と「飯室谷回峰行道」(同図の太い薄目の黒色ルート)があり、正確なルートは秘密との事です。インターネットや書籍で調べた上で、前者「無動寺回峰行道」を実際に歩いて見ました。旧中山道から歩行通算20日目の11月20日(日)にスタートし、格別に危険なルートではなかったが、谷底のルートや京都市・大津市が見渡せる高台も通過し起伏のある行道でした。散在している寺社とその痕跡に一つ一つ丁寧に勤行しながら苦行する行者に思いを馳せながら歩きました。歩行軌跡は15.4kmほどを8時間45分掛けた歩きとなりました。周回後、翌日の京都大回りに備えるために京都駅前へ電車移動し投宿しました。

b. 「京都大廻りルート」を周回

回峰行者が京都大廻りで立ち寄る寺社、ルートも秘密との事でしたが、上同様に調べた処の寺社を2日間で回りました。図-31の実線ルート(青色は前半、赤色は後半)です。

2日間の歩行軌跡は53km程になりました。

(a) 旧中山道から歩行通算21日目11月21日(月)は京都駅を起点として、あやかりの寺社を右回りに歩き、つまり、京都市内の西半分を歩き、赤山禅院で区切りました。この時の主な立寄り・参拝寺社は17箇所余り。——東寺・西本願寺・神泉苑・二条城・出世稲荷神社・仁和寺・竜安寺・金閣寺・平野神社・北野天満宮・西方尼寺・上善寺・京都御所・上怨霊神社・上賀茂神社・下賀茂神社・赤学禅院等——

(b) 2日目は前日離れた赤山禅院をスタート

し、右回りに、残り、市内の東半分を巡って京都駅に到着、一周して完結としました。この時の主な立寄り・参拝寺社は16箇所余り。——赤学禅院・鷲森神社・銀閣寺・真如堂・金戒光明寺・聖護院・平安神宮・南禅寺・青蓮院・知恩院・八坂神社・建仁寺・清水寺・六波羅蜜寺・印旛堂・五条天神宮・東本願寺等——

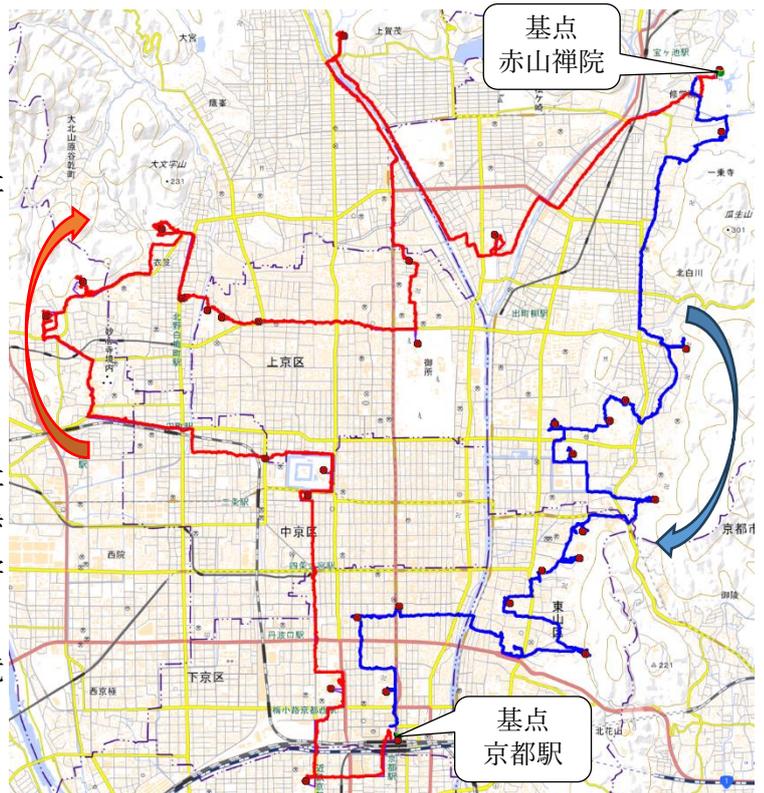


図-31

(3) 強い印象

a. 神仏習合の事

京都の赤山禅院に行ったら、まさに神仏混淆の代表格見たいな所。境内の入り口は、「赤山大明神」の鳥居があります。しかし、境内に入って説明版を見ると「天台宗の寺院(仏閣)」であるとはっきり書かれています。そして、「ご神体は・・・神像」だと書いてあります。お守りを売っている女性に聞いたら「境内全体がお寺」との事でした。比叡山延暦寺の千日回峰行の行者は、寺院(仏閣)のみならず神社(社殿)にもお参りします。この神仏あべこべ感が大好きです。

また、延暦寺根本中堂の入り口を入った中庭に竹が生えている囲みがあるが、隣で掃除・手入れしてい

る僧に「それは何ですか」と尋ねたら「神様を勧請したもの」と話されました。この二つについては、神仏習合の奥深い様々な背景がありますが、ここでは省略します。

そう言えば、私の菩提寺である岩波の石行寺の住職に対して、自宅を建替えした時、仏壇と神棚の芯入れ祈祷をお願いしましたら、神（神棚）仏（仏壇）二つに共通して般若心経を拝んでくれました。なるほど、心経奉讃文によれば「神前に於いては宝の御経」「仏前に於いては花の御経」と書かれています。ある本の中に、我が日本人の信仰心に関連し、「神威仏光を仰ぐ万民の崇仏敬神の祈念」と言う一節がありました。あまりにもいいのでこの文字の綴りを覚えました。

b. 観光客の事

秋の紅葉の最盛期でしたから、各地の名所旧跡、神社・仏閣には、国内外多くの観光客が繰り出していました。京都では拝観料を払って境内に入ると押されて自然に流されて行く感じで、どこもゆっくりと景色を楽しむように状況にはありませんでした。さすがは観光名所の古都京都でありました。

(4) サブステージ全体を通しての感想をつたない短歌に

“貫せんいたちぎょうたい千日回峰行の志 なぞり歩いて心に刻む”

“京しんぶつひと都では神仏人が同座する 皆が輝こぼきお零れ貫う”

“仏道を極めた人の真似をして 歩いてみたら雑念増えた”

“京きょうみやこ都は何回来ても人盛り 見えない力を見える力に”

“京きょうみやこ都は紅葉盛りの黄金期もみじ おうごんき 私わたしが紅葉の散るおさを抑えん”

“これだけの人がどこから湧き出ると 観光客がうねりとなって”

⑦2011 (平成23) 年「旧中山道(+千日回峰行道)」スルーハイク (21連泊22日間) の全踏破歩行記録

----- 移動行程集計表

< 携行したガーミン社の「オレゴン機 (地図搭載、GPS軌跡&タイム スタンプ機能)」と「カシミール3D(フリーソフト)」により集計 >

「大香ブランド老魂サブタイトル」は ~ 和宮降嫁の尽忠報国 (報告) 1・2(ワンツー)ミッション & 比叡山千日回峰行道の讃仰(さんごう)体験 ~

累積 日数	行動月日		街道の歩行区間 通過主要地点・旧宿場名・始終点	実歩行 距離 km	歩行時間				平均時速 km/h	天候	備考	宿泊先 (略称)	
	月 日	曜 日			歩行開始 時:分	歩行終了 時:分	歩行時間 時間:分	時間換算 時間				所在地	名称
				a	b	c	d=c-b	e	f=a/e				
前日	10月31日	(月)									(前日泊)→	東京都中央区	トレストイン日本橋
1日目	11月1日	(火)	[0日本橋(S)]→1板橋→2蔵→3浦和→4大宮	36.2	6:00	16:15	10:15	10.3	3.5	晴れ		埼玉県さいたま市	パークプラザ大宮
2日目	11月2日	(水)	(前終点)→5上尾→6桶川→7鴻巣→8熊谷	40.4	6:05	17:35	11:30	11.5	3.5	晴れ		埼玉県熊谷市	マロウドイン熊谷
3日目	11月3日	(木)	(前終点)→9深谷→10本庄→11新町	34.8	6:00	15:30	9:30	9.5	3.7	晴れ		群馬県高崎市	ビジネス旅館丸直
4日目	11月4日	(金)	(前終点)→12倉賀野→13高崎→14板鼻→15安中→(雲雀)	31.9	6:00	15:30	9:30	9.5	3.4	晴れ		群馬県安中市	かんぼの宿 磯部
5日目	11月5日	(土)	(前終点)→16松井田→17坂本→[碓氷峠]→18軽井沢	29.1	5:55	16:15	10:20	10.3	2.8	晴れ		長野県軽井沢町	すわの森ホテル
6日目	11月6日	(日)	(前終点)→19沓掛→20追分→21小田井→22岩村田	25.9	6:40	15:10	8:30	8.5	3.1	曇り後雨		長野県佐久市	佐久ホテル
7日目	11月7日	(月)	(前終点)→23塩名田→24八幡→25望月→26芦田→[笠取峠] →27長久保→(落合)	33.6	6:10	16:00	9:50	9.8	3.4	晴れ		長野県長和町	民宿 みや
8日目	11月8日	(火)	(前終点)→28和田→[和田峠]→29下諏訪	35.5	5:50	16:20	10:30	10.5	3.4	晴れ		長野県下諏訪町	聴泉閣かめや
9日目	11月9日	(水)	(前終点)→[塩尻峠]→30塩尻→31洗場→32本山→33贅川 →34奈良井	40.4	5:45	16:15	10:30	10.5	3.8	晴れ		長野県塩尻市	しまだ民宿
10日目	11月10日	(木)	(前終点)→[鳥居峠]→35藪原→36宮ノ越→37福島→38上松	38.1	6:55	16:15	9:20	9.3	4.1	晴れ	中間地点通過	長野県上松町	田政旅館
11日目	11月11日	(金)	(前終点)→39須原→40野尻→(十二兼)	27.2	7:00	14:20	7:20	7.3	3.7	雨		長野県大桑村	ビジネス旅館関山
12日目	11月12日	(土)	(前終点)→41三留野→42妻籠→[馬籠峠]→43馬籠→44落合	26.1	7:15	16:15	9:00	9.0	2.9	晴れ		岐阜県中津川市	民宿 髭田
13日目	11月13日	(日)	(前終点)→45中津川→46大井→[十三峠]→47大湫→[十三峠] →48細久手	40.8	5:50	16:30	10:40	10.7	3.8	晴れ		岐阜県瑞浪市	旅館 大黒屋
14日目	11月14日	(月)	(前終点)→49御嶽→50伏見→51太田→52鶴沼	36.6	6:00	15:30	9:30	9.5	3.9	晴れ		愛知県犬山市	臨江館
15日目	11月15日	(火)	(前終点)→53加納→54河渡→55美江寺→(東赤坂)	38.3	6:30	16:00	9:30	9.5	4.0	晴れ		岐阜県大垣市	アパホテル大垣駅前
16日目	11月16日	(水)	(前終点)→56赤坂→57垂井→58関ヶ原→59今須→60柏原→61醒井	30.0	6:25	15:50	9:25	8.1	3.7	晴れ		滋賀県米原市	ホテルナレッジイン
17日目	11月17日	(木)	(前終点)→62番場→[摺針峠]→63鳥居本→64高宮→65愛知川 →66武佐	34.9	6:25	15:25	9:00	8.3	4.2	晴れ		滋賀県近江八幡市	ベストイン近江八幡
18日目	11月18日	(金)	(前終点)→67守山→68草津→(瀬田)	29.9	7:55	16:05	8:10	8.2	3.7	晴れ		滋賀県大津市	瀬田アーバンホテル
19日目	11月19日	(土)	(前終点)→69大津→70三条大橋→(京都御所)→(二条城)	28.8	6:15	13:50	7:35	7.6	3.8	雨		滋賀県大津市	家族旅館 宿汐
			合計	638									
			1日平均	33.6				9.4	3.6		543	←ルート沿い計画距離	

以下は比叡													
20日目	11月20日	(日)	比叡山周回(坂本→東塔→西塔→横川→坂本)	15.4	6:35	15:20	8:45	8.8	1.8		無動寺ルート	滋賀県大津市	「家族旅館宿汐」
21日目	11月21日	(月)	京都大回り西半分周回(京都駅→金閣寺→赤学禅院)	32.1	7:00	17:00	10:00	10.0	3.2			京都府京都市	「京都タワーホテル」
22日目	11月22日	(火)	京都大回り東半分周回(赤学禅院→清水寺→[京都駅](G))	20.9	6:45	13:20	6:35	6.6	3.2				ゴール
											(最終日泊)→	愛知県名古屋市	「名古屋クラウンホテル」
			合計	68									61 ←ルート沿い計画距離
			総計	707									604 ←ルート沿い計画距離
			1日平均	32.1				9.2	3.5				27.5
				km				時間	km/h				km

(注1) ルート沿い計画距離に対して実歩行距離が、103km (1日当り4.7km程) 長くなった理由は、山道の登降(沿面距離)、神社・仏閣立寄り等のジグザク歩き方の影響による。

(注2) 距離と時間の集計は、旧街道・古道沿い関係のみであり、長時間(片道15分・500m程度超過) 街道を離れた場合などの移動ロスを除いて補正している。

(注3) 「比叡山一周・京都大回り」は、比叡山延暦寺僧の千日回峰行者の修行道ルートである。